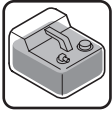


使用（航海）前後の点検

1 使用（航海）前後の点検 出航（発航）前の確認事項

点検は危険が少なく他の人に迷惑がかからない場所で行ってください。

エンジン始動前

No.	点検内容	
1	気象・海象予報を確認したか。	
2	航海予定をマリーナや家族、知人に連絡したか。	
3	船舶検査書類は所持したか。また、有効期限は切れていないか。	
4	小型船舶法定備品は揃っているか。	
5	乗員全員、救命胴衣を着用したか。	
6	船体各部及びプロペラに損傷、変形、異物の付着はないか。（上架時）	
7	緊急時の避難口を確保する。また、乗員に緊急時の対処法（避難経路、消火装置の位置と使いかた、通信装置の使いかたなど）を説明する。	
8	定員、積載制限を超えていないか。	
9	船底バルブ（排水口、マリントイレの給排水バルブ、海水供給システム（デッキウォッシャー）の給水バルブなど）や船体ハッチが正しく閉じられているか、または開いているか。	
10	船外機が艇体に確実に固定されているか。	
11	船外機がキールラインに対して垂直になっているか。（チルトダウン）	
12	エンジン周りから燃料、油類、冷却水などの漏れはないか。	
13	エンジンオイル、ギアオイル、ステアリングオイルの量は適正か。	
14	操舵装置は良好か。12ページを参照して推進・操舵系の点検をする。	
15	エンジンリモコンレバーがニュートラル・最低速位置にあるか。	
16	燃料は十分に入っているか。 燃料バルブを開ける。別体式燃料タンクのエアベントを開ける。 3ページを参照して、燃料系の点検をする。	
17	バッテリーの液量は適正か。端子の緩みはないか。 7ページを参照して、電装系の点検をする。	
18	船内にビルジは溜まっていないか。 11ページを参照して、排水系の点検をする。	
19	清水タンクに入っている古い水は排出し、真水を入れる。	
20	プロペラ付近に遊泳者がいないか、巻き込む恐れがあるものがないかなど、船の周囲の状況を確認する。	
21	操船者の視界を遮るものがないか。	

エンジン始動後

No.	点検内容	
1	エンジン冷却水が排出されているか。	
2	エンジン、船体各部から燃料、油類、冷却水などの漏れがないか。	
3	ビルジ排出装置が正常に作動するか。	
4	バッテリー、ステアリング、電装品（航海灯、メーター、ホーン、ワイパーなど）、エンジンなど各部に異常がないか、正常に作動するか。	
5	一酸化炭素検知器を装備している場合は、正常に作動しているか。	
6	エンジンリモコンレバーがスムーズに動くか。	
7	エンジンから異音や異臭がしないか。	
8	暖機運転を実施する。	
9	（コードタイプの緊急エンジン停止スイッチが装備されているボート）コードを操船者の救命胴衣などに取り付けたか。	

2 使用（航海）前後の点検 航海中の確認事項

航海中の確認事項

No.	点検内容	
1	乗員の動きや異常、気象・海象の変化に気を配る。	
2	機関部からの音や臭い、振動などに異常がないか。	
3	船内にビルジが溜まっていないか。また、ビルジの量や色に異常がないか。	
4	燃料の残量を確認する。減りが早いときは、燃料系統に異常がないか点検する。	
5	電装品を使いすぎているか。	

3 使用（航海）前後の点検 帰港後の確認事項

着岸後

No.	点検内容
1	エンジンリモコンレバーをニュートラル位置にし、約5分間アイドリング状態でエンジンを冷却させる。 (クーリングダウン)

エンジン停止後

No.	点検内容
1	船外機をチルトアップし、プロペラに変形や損傷がないか確認する。
2	各電装品、エンジンのスイッチを切る。
3	バッテリースイッチを切る、またはバッテリー端子を外す。
4	別体式燃料タンクのエアベント、燃料バルブを閉める。
5	船底バルブ（排水口、マリントイレの給排水バルブ、海水供給システム（デッキウォッシャー）の給水バルブなど）を閉める。
6	船内にビルジが溜まっていないか。溜まっている場合は、ビルジポンプを作動させるかドレンプラグを開けて排水する。
7	各部に水漏れ、油漏れがないか。
8	船体各部に損傷はないか。
9	航海予定を連絡した人に帰港したことを伝える。
10	燃料を満タンにする。陸上運搬する場合は、燃料タンクを空にする。
11	船内の危険物は陸上に降ろす。
12	船体を水洗いする。

4 使用（航海）前後の点検 燃料系点検要領

燃料システム

**危険**

気化したガソリンは、引火爆発する危険があります。
ガソリンのある付近では、火気を絶対使用しないでください。

一般社団法人 日本マリン事業協会 A003-00

**警告**

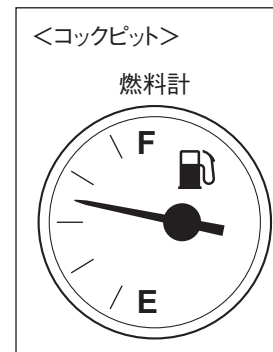
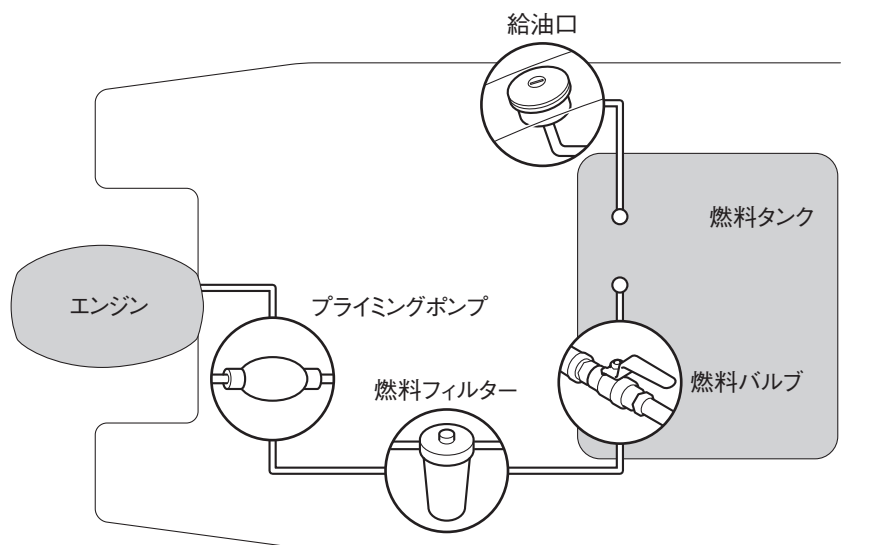
燃料は引火しやすく火災の恐れがあります。
燃料タンク等への給油時は、

- ・エンジンを停止してください。
- ・風通しの良い所で行ってください。
- ・燃料をこぼさないでください。
- ・こぼれた燃料は、布などで完全に拭き取り、その布は火災及び環境に留意して処分してください。

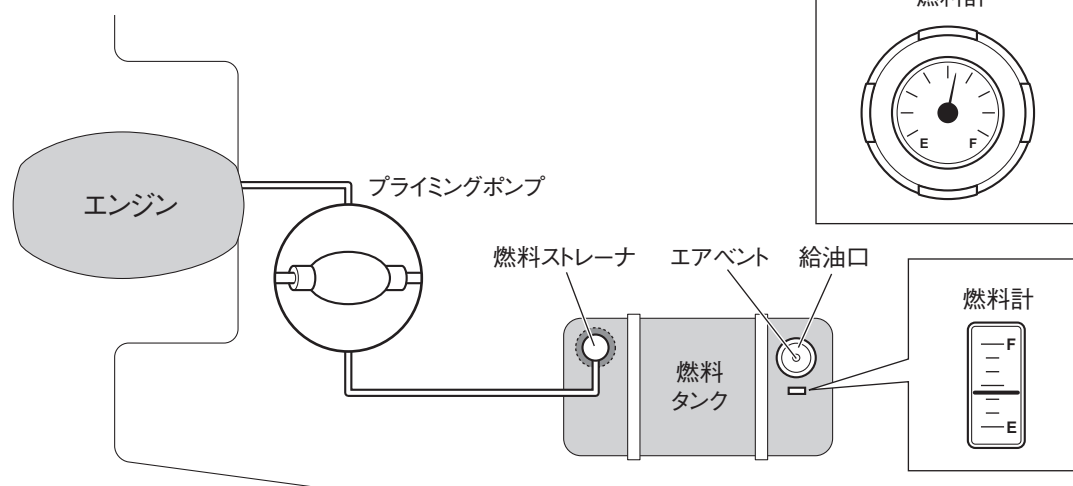
一般社団法人 日本マリン事業協会 B008-00

出航（発航）前に次の点検をしてください。

●固定式燃料タンク

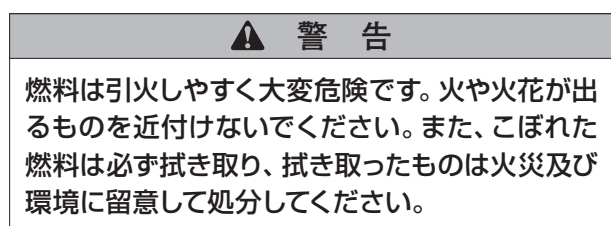
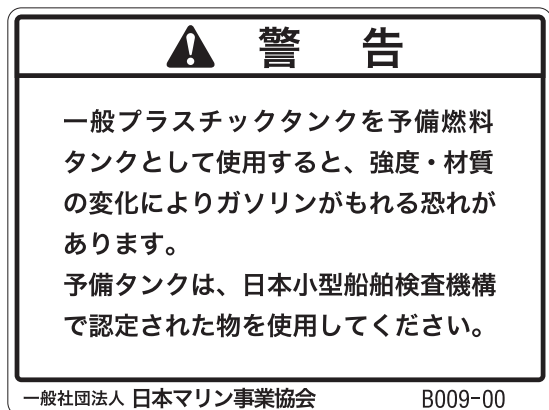


●別体式燃料タンク



項目	操作・点検
燃料計	正常に作動しているか。
燃料タンク	- 十分に燃料が入っているか。 - 燃料が漏れていないか。 - 確実に固定されているか。 - エンジン始動前にエアベントを開ける。 (エアベントが付いている別体式燃料タンクの場合)
燃料フィルター/燃料ストレーナ	ゴミが溜まっていないか。
燃料ホース	折れ曲がっていたり、亀裂がないか。
給油口	キャップが閉められているか。
燃料バルブ	- エンジン始動前にバルブを開ける。 - 燃料が漏れていないか。
プライミングポンプ	ポンプを固くなるまで繰り返し握り、燃料をエンジンに送る。

燃料タンク



アドバイス

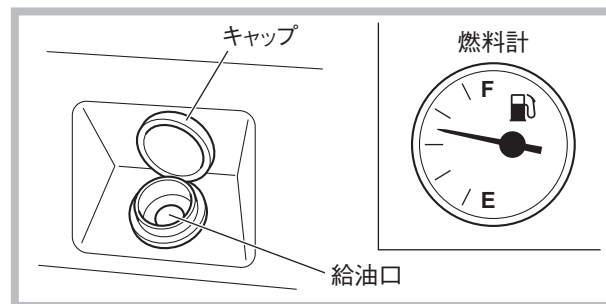
補給時や航走可能時間の計算時などに燃料タンクの容量を知っておく必要がありますので、事前に確認しておいてください。

燃料タンクには船体に組み込まれた固定式とベルトなどで船体に固定された別体式があります。燃料タンクは定期的に水やゴミが溜まっていないか確認し、年に1回は内部を清掃してください。

■ 固定式

補給するときは、給油口のキャップを外し、ノズルを挿入して補給します。

燃料の残量はコックピットの燃料計で確認してください。



■ 別体式

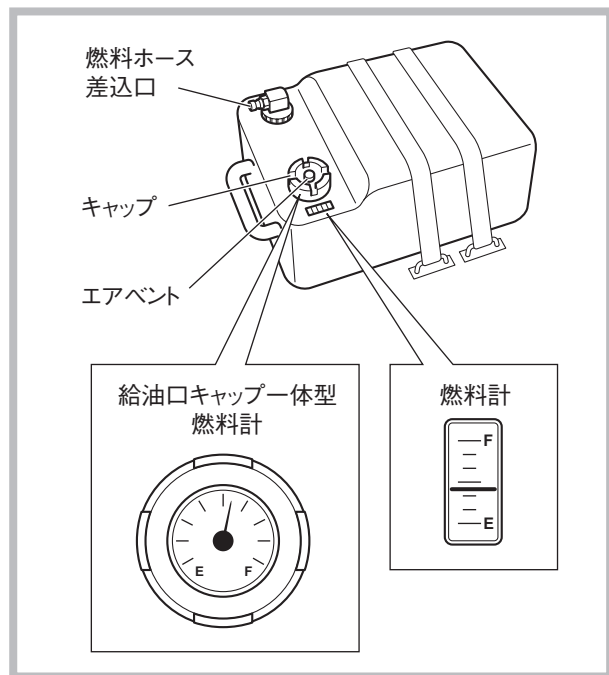
別体式燃料タンクは指定された場所にベルトなどで固定してください。

補給するときは、燃料タンクについている給油口のキャップを外し、ノズルを挿入して補給します。

燃料の残量は燃料計で確認してください。

別体式燃料タンク（専用燃料タンク）は燃料を入れたまま車で運搬できません。

専用燃料タンクの取り扱いは、船外機の取扱説明書をご覧ください。



⚠ 警告

補給後は給油口のキャップを必ず閉めてください。燃料が漏れると引火や爆発の恐れがあります。

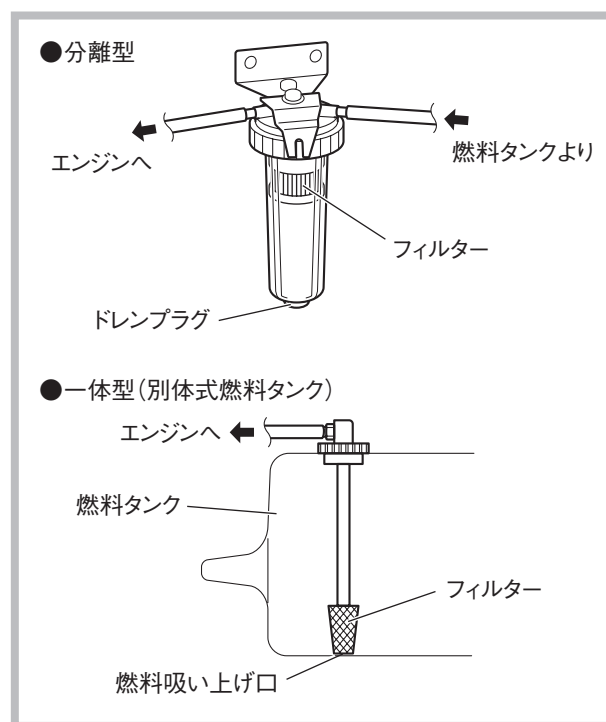
燃料フィルター

⚠ 警告

燃料は引火しやすく大変危険です。火や火花が出るものを近付けないでください。また、こぼれた燃料は必ず拭き取り、拭き取ったものは火災及び環境に留意して処分してください。

燃料フィルターは燃料の中の水やゴミを取り除く役割をしています。

燃料フィルターには、燃料タンクとは別でフィルター単体で取り付けの分離型と、燃料タンクに取り付いている一体型があります。



フィルターにゴミや水が溜まらないように、定期的に清掃または交換してください。フィルターが詰まると燃料の流れが悪くなり、エンジン不調の原因になります。なお、ガソリンは危険物です。清掃や交換は、ガソリンの扱いを熟知している方が行うか、マリーナやご購入店に依頼してください。

電装システム

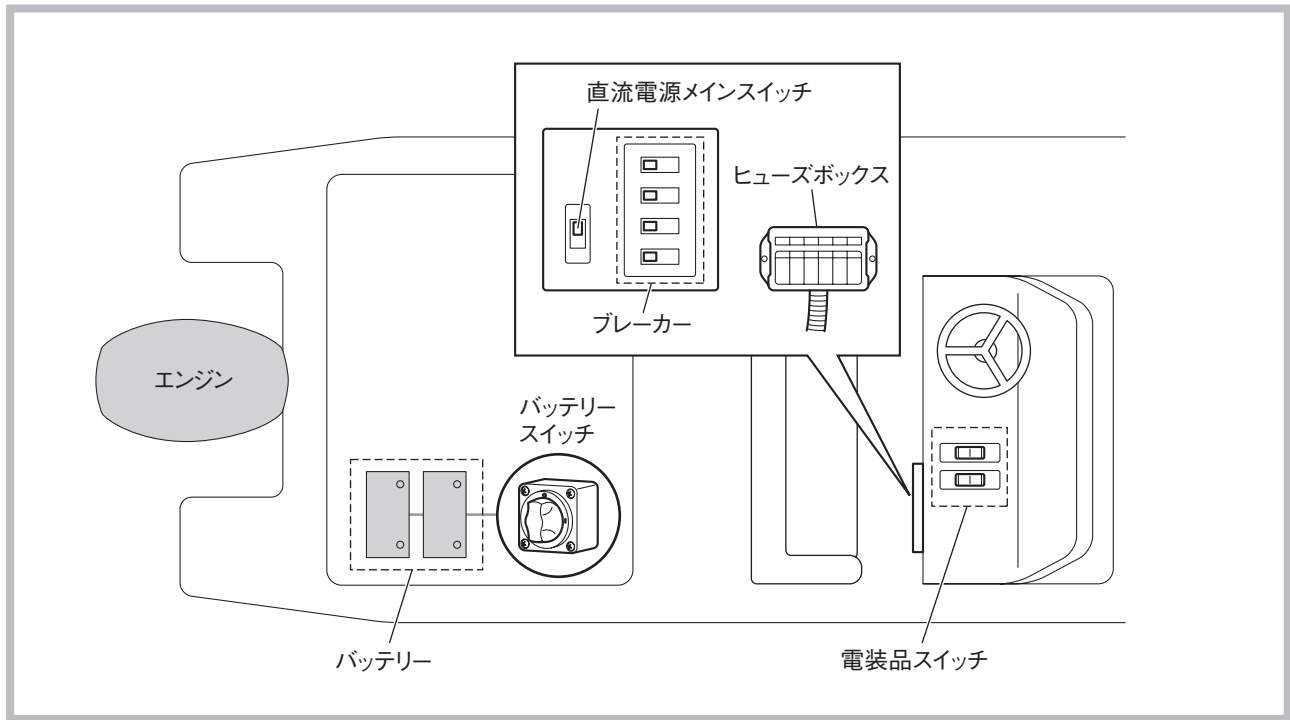
⚠ 警告

電装品を誤って使用すると、火災や爆発につながる恐れがあります。各専用取扱説明書をよく読み、正しくお使いください。

⚠ 注意

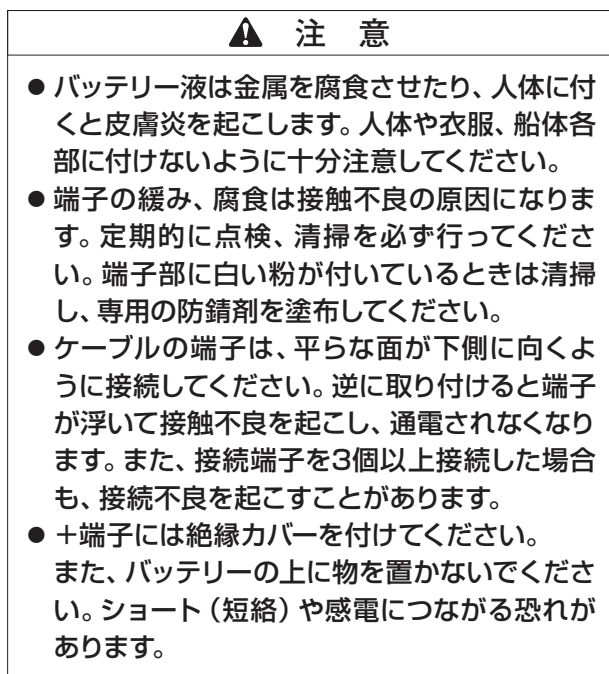
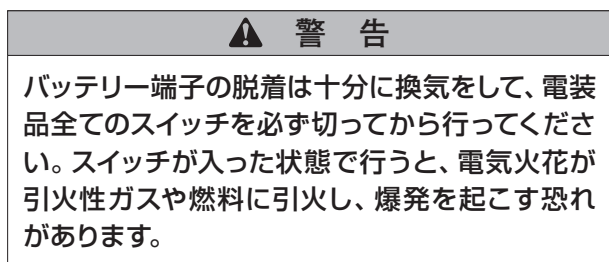
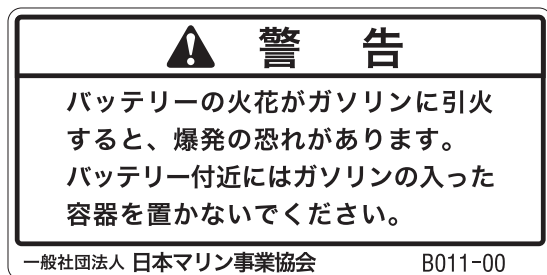
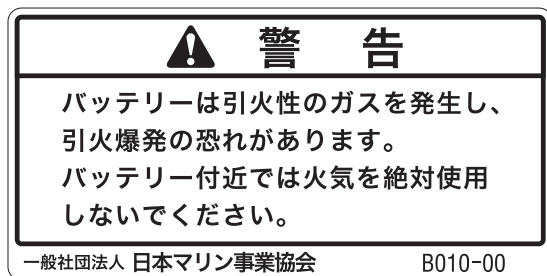
電装システムの修理やメンテナンスは、ご購入店に依頼してください。知識のない方が作業すると、感電する恐れがあります。また、電装品の故障につながります。

出航（発航）前に次の点検をしてください。



項目	操作・点検
バッテリー	• バッテリー端子は確実に接続されているか。 • 船体に固定されているか。 • バッテリー液の量は適量か。または比重計で状態を確認する。
バッテリースイッチ	• 各電装品のスイッチが切れていることを確認してからバッテリースイッチを入れる。
直流電源メインスイッチ	• スwitchを入れる。
ヒューズ・ブレーカー	• ヒューズが切れていないか。ブレーカーが落ちていないか。

バッテリー



バッテリーはボートの装備によって種類や数が変わります。必ず指定のバッテリーを取り付けてください。

エンジンや充電器などでバッテリーは充電されます。充電システムの詳細は、ボート固有情報をご覧ください。

長期保管する場合は、満充電にしてからバッテリー端子を取り外してください。

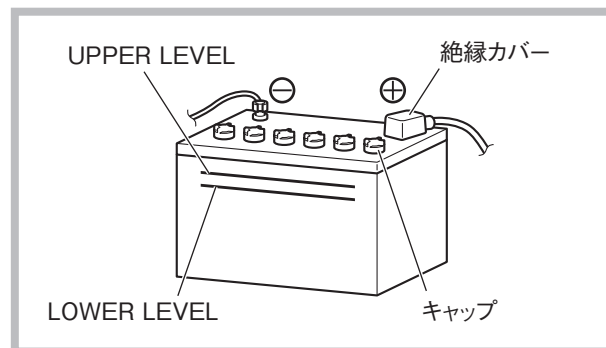
バッテリーは、定期的に点検してください。エンジン始動時や電装品使用時に電圧の低下が感じられる場合は、補充電やバッテリー交換を行ってください。

■ 点検

バッテリー液は使用しているうちに、電気分解して減っていきます。

液面は、LOWER LEVEL（下限）とUPPER LEVEL（上限）との間にあれば正常です。レベルラインのないバッテリーは、極板が完全に浸る位置がLOWER LEVELで、LOWER LEVELから約10mm上がUPPER LEVELです。液が少ないときはキャップ（蒸留水注入口）を外し、UPPER LEVELまで蒸留水を補給してください。

メンテナンスフリーのバッテリーは、蒸留水の補充は必要ありません。



バッテリー区画

■ 点検

換気口が荷物や道具等で塞がっていないか確認してください。

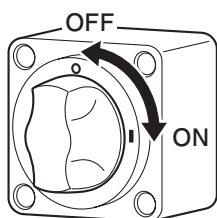
バッテリースイッチ

⚠ 警告

- エンジン作動中はバッテリースイッチを切らないでください。エンジンが故障します。
- エンジン停止中に長時間バッテリースイッチを入れたままにしないでください。バッテリーがあがる恐れがあります。
- 使用しないときや離船するときはスイッチを必ず切ってください。バッテリーがあがる恐れがあります。

バッテリースイッチは、バッテリー付近に取り付けられています。
エンジンを始動するときにスイッチを入れます。

● バッテリー付近に設置



🔧 アドバイス

エンジンの学習機能

エンジンによっては、停止後、エンジン内のコンピュータがしばらく作動している場合があります。エンジン停止後、すぐにバッテリースイッチを切ると、エンジンの作動に悪影響を及ぼす恐れがあります。エンジンの取扱説明書の指示に従って、バッテリースイッチを操作してください。

ヒューズとブレーカー

⚠ 注意

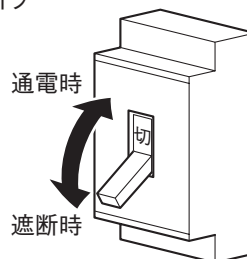
ヒューズまたはブレーカーを交換するときは、規定容量のものと交換してください。規定容量以外のものを使用すると電装品が故障する恐れがあります。

各電装品回路に過電流が流れると、ヒューズまたはブレーカーが回路を遮断し、配線の過熱、発火を防ぎます。

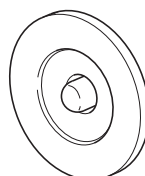
電装品の電源が入らないときは、ヒューズが切れているかブレーカーが落ちている可能性があります。過電流になった原因を解決してから、ヒューズやブレーカーの点検・交換を行ってください。

ヒューズやブレーカーは、各電装品付近または配電盤に取り付けられています。

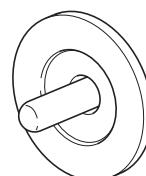
● 切り換えタイプ



● 突き出しタイプ



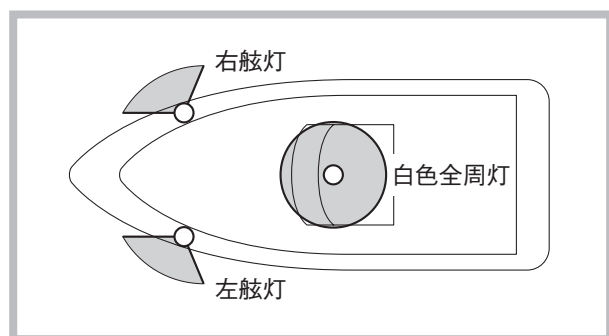
通電時



遮断時

航海灯

夜間や視界の悪いときに航走する場合は、舷灯一対（または両色灯）と、マスト灯及び船尾灯（または白色全周灯＝停泊灯）を点灯します。



🚢 アドバイス

- 航海灯は、他の構造物で光がさえぎられない高さに取り付けてください。
- 夜間（日没からの日の出）航走する場合は、航海灯の点灯が法律で義務付けられています。
- 夜間航走する場合は、日本小型船舶検査機構（JCI）が行う検査を受け、許可を得る必要があります。

電食と防食亜鉛

電食とは、異なる金属が海水を介して接続しているとき、お互いの金属間の関係は電池と同じになり、電流が流れます。そのとき、マイナス側から金属イオンが放出されるため、金属が腐食していく現象です。

ボートは日常的に水に浸かっているため、金属部品は時間とともに電食していきます。特に水中にあるプロペラなどは電食しやすく、折損や変形などの損傷につながります。

電食を軽減するために、エンジンには防食亜鉛が取り付けられています。エンジンの取扱説明書の指示に従って、定期的に交換してください。

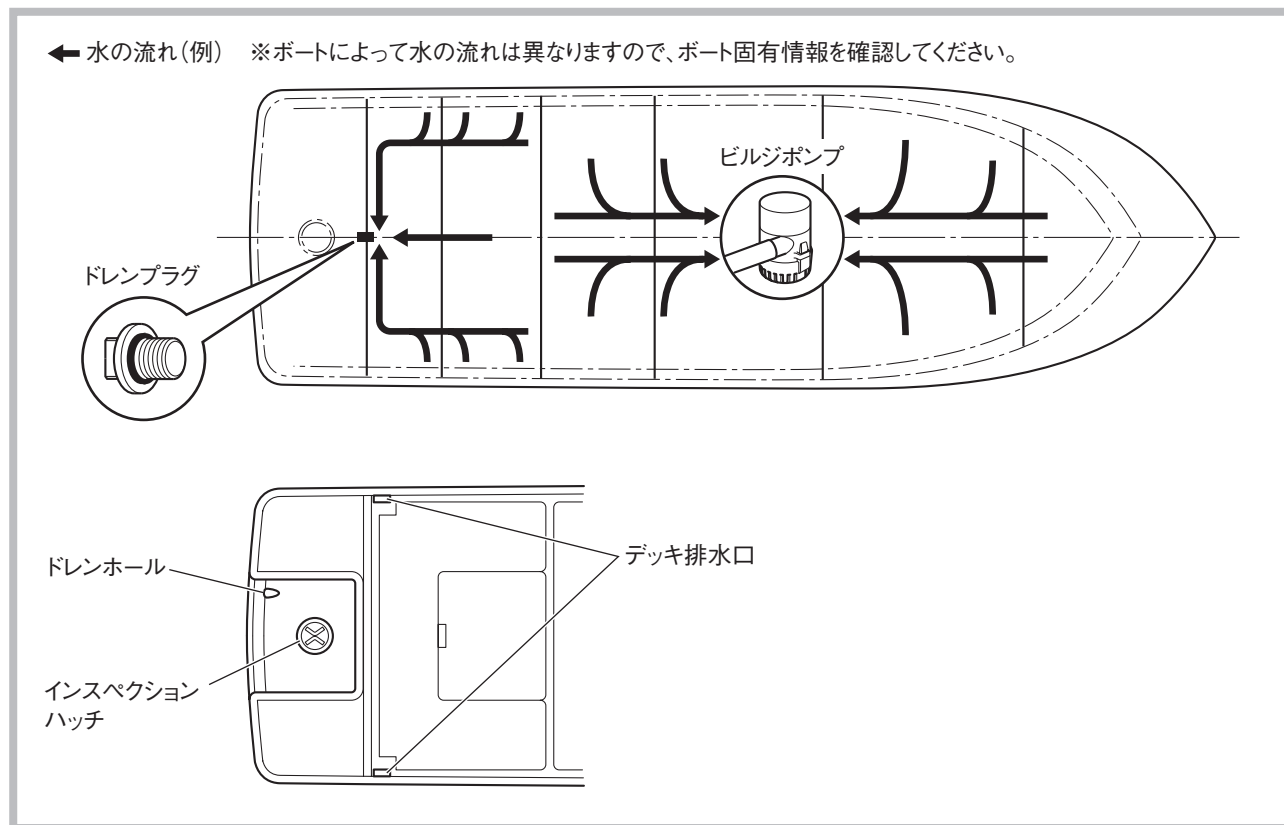
⚠ 注意

防食亜鉛の表面または亜鉛と接触している金属の間に塗料を塗らないでください。防食効果がなくなります。

6 使用（航海）前後の点検 排水系点検要領

排水経路

出航（発航）前に次の点検をしてください。



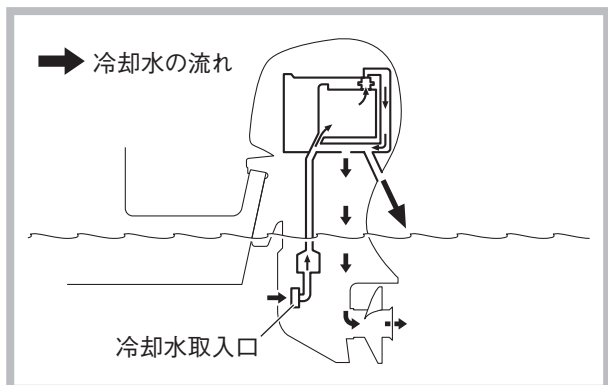
項目	操作・点検
ビルジポンプ	• 正常に作動するか。 • ストレーナにゴミが溜まっていないか。 • 船内に水が溜まっている場合は作動させて排水する。
ドレンプラグ	• 浸水はないか。 • （上架時）確実に閉められているか。 • （上架時）シール材は劣化していないか。 • （上架時）水が溜まっている場合は開けて排水する。
デッキ排水口・ドレンホール	• キャップがある場合は外す。 • ゴミが溜まっていないか。
インスペクションハッチ	• 内部に水が溜まっていないか。

浸水を知らせる警報システムが装備されているボートは、そのシステムの取扱説明書に従って点検します。

7 使用（航海）前後の点検 冷却水系点検要領

冷却水経路

出航（発航）前にエンジンから冷却水が排出されているか確認してください。



8 推進・操舵系点検要領

ステアリング

⚠ 警告

ステアリング装置の作動不良は操船不能に陥り、漂流につながる恐れがあります。

ステアリング装置には、ケーブル式、手動油圧式、パワーステアリングなどさまざまな方式があります。定期的に点検し、メンテナンスを行います。ステアリングホイールを前後に動かしてガタがないか、回して異常なあそびや重さがないか確認します。異常がある場合は、ご購入店で点検を受けてください。

⚠ 注意

無理にストローク以上回そうとすると、シリンダーやヘルムポンプが破損する恐れがあります。

手動油圧式とパワーステアリングの場合は、指定されたオイル量があるか確認します。不足している場合は、ご購入店で点検を受けてください。

🔧 アドバイス

ステアリングの回転数が増加したときは、油圧回路内に空気の混入やオイル漏れの可能性がありますので、ご購入店で点検を受けてください。